

学校教育目標	成果と課題	改善策・向上策
花とみどりと笑顔の学校	・学校経営のビジョン『友だちや学校や地域の支えやつながりの中で、人とつながり、新しい社会を創造していく力をもった、子どもを育てる』から、北小応援団の方と一緒に活動をしたり、学年を超えた児童同士の触れ合いをしたりしている。	・今後の活動も、10年後、20年後に大輪の花を咲かせる子どもの姿を見据えた教育活動への取り組みとして、生活科・総合的な学習の時間を主として「自ら学びに向かう子ども」の姿を求めた授業づくりに力を注いでいく。
10年後、20年後に大輪の花を咲かせるための今の創造 ～よくふれあい・よく学び・よく遊ぶ～		

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策・向上策
学校教育	よくふれ合い	あいさつの響く学校づくり	・「5つのあいさつ」(1日に何度も、相手を見て、会釈して、笑顔で、自分から)をおこなっている。 ・北小応援団と連携した活動を積極的に行い、地域のもてる力を有効活用している。	・自分から進んで挨拶をする子が多い。 ・学年に合った「あいさつ」に取り組めている。	今後もクラスやたてわりのペアなどで「あいさつの大切さ」について考えていく。
		かかわり合う場の確保		・クラブ活動や読み聞かせの会、職場体験学習、総合的な学習の時間、学校行事等でも地域の方に支えていただき、共に学ぶ姿が見られる。	・引き続き、応援団の方や、地域の方と一緒に行える活動を考えていく。
		学年の枠を超えて友だちと交流する場の保証	・学年内やペア学級さらには全校で友だちとふれあう活動 ・子どもたちのアイデアを生かした児童会活動を行っている。	・他学年や他クラスなど、クラスの枠を超えて活動を行うことができている。 (生活科や総合的な学習の時間などで)	・教科の学習などで、伝える活動場面等で、積極的にペア学級や学年内等の交流に引き続き取り組んでいく。
	よく学び	子どもたちの「問い」を真ん中にすえた授業の創造	・以下の点を大切にした授業を行っている。 ・子どもの問いを真ん中にすえた授業展開 ・これまでの学びを活用・発揮できる学習過程 ・多様な他者とかかわりあうことができる学習環境	・「自分で考える・考えを書く・考えを出し合う」ということを全職員で意識してきたことで、児童アンケートの「自分で考えている」という項目の結果が向上している。	・全職員が共通認識をもった上で来年度の研究テーマを設定し、授業づくりに取り組んでいく。 ・村瀬先生の授業クリニックを引き続き行い、個々に授業改善を行っていく。また地域の方にも授業を見ていただき、子どもたちのことを研究会に参加し一緒に考えた取り組みがよかった。来年度も、地域、他校(三中区を中心に)とも連携して授業改善に取り組んでいく。
よく遊び		「ハッピータイム」(外遊びやかかわり遊びの日)の位置づけの継続充実と、遊びの時間の確保	・子どもと一緒に外遊びを含む、関り遊びを楽しんだり、子どもが遊びに進んで取り組めるよう働きかけたりしている。	・ハッピータイムや休み時間に、友だちと関わりながら、楽しく遊んでいる姿が多くみられる。 ・児童の評価も高く、水曜日に30分間の遊びの時間を確保していることは、効果的であると感ずる。	・ハッピータイムの時間に、遊び方や友だちとの関わり方で困っている児童がいらないかを引き続き教師が把握していくことが必要である。 ・地域の方と触れあえる機会を増やし、コミュニティルームの有効的で持続的な活用法の検討を推進していく。

学校経営	保護者・地域との連携	情報の発信	教育方針・取組やその成果・連絡など、必要な情報を定期的に発信している。	・HPの更新や学年・学級通信の発行を通して、学校の取組や子どもたちの日々の学びの様子を発信を継続していく。	・定期的な情報発信をつづけていく。 ・多くの保護者の方や地域の方に情報を見てもらうための発信手段についても検討していく。(学校から保護者への通信はデジタル化)
		PTA・ボランティアとの連携	PTAやボランティアとの連携を十分行っている。	・PTA主催の北小まつりは毎年楽しみにしている児童会が多い。今年度も多くの児童が参加し、児童・保護者・教職員・地域住民が触れ合う機会となった。 ・北部まちづくり協議会・新田自治会およびPTAの方々など地域と連携をし、学校の環境を整えている。また、PTCA作業も同様だった。 ・学校・保護者・地域がつながり一体となって児童を育てていく北小学校をさらに目指していきたい。	・PTAおよび学校応援団について、組織の「見える化」や目的を共有する機会をもち、それぞれがつながり、子どもたちの成長を皆で見守る学校づくりを考えていく。 ・子どもたちが楽しみにしている北小まつりは、PTAと学校が協力しながら来年度以降も開催していく。
		一人一人に応じた支援	全職員で児童を支え、一人一人に応じた支援をおこなっている。	・相談室を拡大し、「ホットルーム」を開設した。そこで少し心を休めたり、様々な職員と関わったりしている。そのことが登校に繋がっている。 ・いじめの早期発見のために学校生活に関するアンケートをおこない、アンケート結果から、個別に相談をおこなっている。 ・「全児童を全職員で育てる」を、職員の合言葉とし、生徒指導事案他児童に関する様々なことについて、必ず報連相をおこない複数の職員で対応するようにしている。	・困ったことについて、児童が担任に言えなかったり、担任が気づかなかったりして、対応が遅れることがないように早期の対応をしている。 ・引き続き、教職員誰にでも相談できる雰囲気や保護者との連携を大切に、児童一人一人への適切な対応をおこなっていく。